場所・面積

東京都江東区、面積：0.187 ha

管理目的

都心臨海部における人と生き物がイキイキと共生できる関係性の再生を目指し、都市における生態系回復の長期実証のフィールドとして多様な生態的機能を有する樹林や水辺、林縁のエコトーン（環境の推移帯）の創出・保持と維持管理を実施。

サイト概要

「再生の杜」は清水建設株式会社技術研究所につくられた都市型ビオトープである。2006年、建物跡地に陸域と水域からなる約1,940㎡の緑地を整備し、在来種を中心に多様な動植物が生息生育する場を創出・育成している。竣工後、15年以上にわたり順応的な管理と長期モニタリングデータの蓄積・発信を行っている。また、環境教育をはじめとした生態系サービスを提供する場にもなっている。

土地利用の変遷

当該地は江戸期に埋め立てられた埋立地であり、1970年代に清水建設の研究所が移転してきて以降、本館や実験棟などが整備され研究施設として利用されてきた。対象サイトも元々は旧本館の建物があった場所である。2003年の新本館建設に伴い、旧本館の建物跡地が緑地として整備されて、現在に至っている。

サイト周辺の環境

都心臨海部に立地する東京都江東区越中島に位置する。対象サイト周辺は埋立地であるが、大規模な公園緑地や運河・河川等が分布しており、水とみどりが近接している環境である。

アピールポイント

- ●都市の生態系回復の長期実証フィールドとして、15年以上にわたり動植物モニタリングデータを蓄積し、効果検証および発信を行っている。
- ●都心から約3kmの埋立地にもかかわらず300種以上の動植物が確認できている。20種以上の絶滅危惧種等が継続的に生育している（2021年時点）。
- ●都心臨海部の生態系ネットワーク形成に貢献しており、水草・藻類が茂る水域にはサギ類・カルガモ等が頻繁に飛来し採餌や休息に利用しており、トンボ類は繁殖していることも確認している。
- ●青少年向け公開講座シミズ・オープン・アカデミー等を通じ生物多様性教育を展開している。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】
「都市における人と生き物の関係の再生」をコンセプトとして、地域生態系との融合を目指した緑地デザインに基づき人工的に整備されたビオトープである。
　陸域から水域にかけて湿地・水辺林・草地・雑木林・常緑林とゾーニングがなされ、徐々に環境が推移する「エコトーン」が形成されており、多様な動植物の生息・生育空間を創出・育成している。植栽した在来種200種（木本106種，草本94種）および表土は関東産とし在来種を中心とした植生となっている。また、地域の生態系ネットワークを考慮するために周辺緑地の生物調査や指標生物の棲みやすさを可視化するシミュレーション解析にも取り組んだ。
　2006年の竣工以降、15年以上にわたり順応的な管理および動植物モニタリングを重ねており、都心から3kmの埋立地にもかかわらず300種以上の動植物が確認できている
　また生物多様性を学ぶ場としても積極的に活用されている。青少年向けの公開講座「シミズ・オープン・アカデミー」などを通じて年間3000人～4000人を受付け入れている。

【主な植生】
　主な植生は、水域、湿地、水辺、雑木林、草地、常緑林である。

【確認された主な動植物】
・植物：クヌギ　*Quercus acutissima*、コナラ　*Quercus serrata*、
　　チガヤ　*Imperata cylindrica*、キキョウ　*Platycodon grandiflorus*
　　ジュンサイ　*Brasenia schreberi*、トチカガミ　*Hydrocharis dubia*
・動物：カルガモ　*Anas zonorhyncha*、コサギ　*Egretta garzetta*、カワセミ
　　Alcedo atthis、ショウジョウトンボ　*Crocothemis servilia mariannae*、
　　クロイトトンボ　*Paracercion calamorum*、シオカラトンボ　*Orthetrum albistylum speciosum*



写真番号：01　　写真の撮影年月：2023年8月
写真の説明：　再生の杜の全景



写真番号：02
写真の撮影年月：2023年8月
写真の説明：陸域の現況



写真番号：03
写真の撮影年月：2023年8月
写真の説明：水域の現況

生物多様性の価値

価値（６）希少な動植物が生息している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】
　対象サイトでは、長期実証の一環として15年以上にわたり動植物モニタリングを継続しており、重要種（環境省および東京都のレッドリストに掲載されている種）も多数確認されている。特に、植物種については、これまでのモニタリング調査で合計49種、最新調査（2021年）でも27種の重要種が確認されている。具体的には、陸域の草地ゾーンにおいて在来草本植物、水域において水草類が継続的に生育している。
　なお、重要種の多くは導入植物であるが、遺伝子攪乱に配慮して、関東圏の圃場から調達している。また、表土中の埋土種子から出現した重要種も含まれている。

【確認された主な希少種】
●陸域
　キキョウ　*Platycodon grandifloras*
　（環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類、東京都レッドリスト区部絶滅）
　オミエナシ　*Patrinia scabiosifolia*（東京都レッドリスト区部絶滅）
●水域
　ジュンサイ　*Brasenia schreberi*（東京都レッドリスト区部絶滅）
　トチカガミ　*Hydrocharis dubia*
　（環境省レッドリスト準絶滅危惧、東京都レッドリスト区部絶滅）
　アサザ　*Nymphoides peltata*
　（環境省レッドリスト準絶滅危惧、東京都レッドリスト区部絶滅危惧IB類）
　マツモ　*Ceratophyllum demersum*（東京都レッドリスト区部絶滅）



写真番号：04
写真の撮影年月：2023年8月
写真の説明：キキョウ



写真番号：05
写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：ジュンサイ

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】
水草・藻類が茂る水域にはサギ類・カルガモ等が頻繁に飛来し採餌や休息に利用するとともに、トンボ類の繁殖場になっており、生態系ネットワークの結節点になっていることが実証されている。

【確認された主な動物種】
●水鳥
・カルガモ *Anas zonorhyncha*
・アオサギ　*Ardea cinerea*
・コサギ　*Egretta garzetta*
・ゴイサギ　*Nycticorax nycticorax*
・カワセミ　*Alcedo atthis*

●トンボ類
・アジアイトトンボ　*Ischnura asiatica*
・ショウジョウトンボ　*Crocothemis servilia mariannae*
・クロイトトンボ　*Paracercion calamorum*
・シオカラトンボ　*Orthetrum albistylum speciosum*

【動物が利用している生活史】
休息・採餌・繁殖



写真番号：07
写真の撮影年月：2021年12月
写真の説明：アオサギの採餌



写真番号：08
写真の撮影年月：2022年7月
説明：ショウジョウトンボ



写真番号：09
写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：クロイトトンボ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

長期モニタリングに基づき、動植物の変化に応じて各ゾーンごとに順応的な管理を実施

・樹林管理：樹林過密化に伴う光環境の悪化を抑え、隣接する草地・湿地などの
エコトーンを維持し、草地・湿地を好む動植物の生息・生育環境を確保

・草本管理：キキョウなどの在来草本種の生育環境の確保

・藻類・水草の刈り取り・除去：枯死した植物体の池底堆積による池の富栄養化
を抑制し、水生生物の生育・生息しやすい水域環境を維持

この他、生物多様性に配慮して侵略的外来種の対策や化学薬品の低減等を工夫

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
再生の杜ビオトープに生息・生育する動植物
（植物・昆虫類・鳥類・底生動物・魚類）

【モニタリング場所】
再生の杜ビオトープ全域

【モニタリング手法】
●体系的なモニタリング
陸域・水域を踏査し、確認された種を記録
●日常的な観察・モニタリング
研究員や従業員が目撃した動植物を対象に観察・写真撮影・記録等を実施

【実施時期及び頻度】
●体系的なモニタリング：概ね５年毎

●日常的な観察・モニタリング：不定期

【 実　施　体　制 】
●体系的なモニタリング
・生物調査を専門とする環境コンサルタント

●日常的な観察・モニタリング
・生物多様性を専門とする研究員、一般従業員